

**参考資料③－1**

キャリア教育で要請される能力（キャリア諸能力）

- ・文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究者会議報告書」（04）
- ・文部科学省「キャリア教育の推進に向けて」（05）
- ・神奈川県教委「かながわキャリア教育実践推進プラン」（05）

キ 領 域	ヤ 域	リ 説 明	ア 能 力	諸 能 力	能 説 明
自 己 教 育 能 力		自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく		【自己理解能力】 自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力  【自己表現能力】 適切な自己表現を通して自己実現を図る能力	
人 間 関 係 能 力		他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む		【他者理解能力】 他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切にして行動していく能力  【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	
情 報 活 用 能 力		学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす		【情報収集・活用能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力  【職業理解能力】 様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	
将 来 設 計 能 力		夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する		【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力  【計画実行能力】 目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力	
意 思 決 定 能 力		自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する		【選択・決定能力】 様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定をし、その結果を責任を持って受け入れ、適応・対処できる能力  【課題解決能力】 希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力	

I. 学校から社会への移行をめぐる様々な課題

- ①経済のグローバル化が進展し、コスト削減や経営の合理化が進む中、雇用形態等も変化し、求人者の著しい減少、求職と求人の不適合が拡大している。
- ②若者の勤労観、職業観の未熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下等が指摘されている。

II. 子どもたちの生活・意識の変容

- ③精神的・社会的自立が遅れ、人間関係を築くことができない、進路を選ぼうとしないなどの子どもたちが増えつつあることが指摘されている。
- ④高等教育機関への進学割合の上昇等に伴い、いわゆるモラトリアム傾向が強くなり進学も就職もしようとしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なままとりあえず進学したりする若者の増加が指摘されている。

- ① 発想力
- ・カルタ（長方形の小さい厚紙）を用い、「テーマ」を設定して、「連想する言葉」（「それは何」「それは／それで何をする」「それはどんなもの」という質問による）を書き、系統立てて貼り付けマップを作っていく。
  - ・カルタを使って自己紹介をさせる。
  - ・クラス全体で一つのカルタを書かせる。
  - ・「いつ」「どこで」「なぜ」「どうやって」「どうなった」という手法で物語のプロットを分析解釈するカルタを作らせる。
- ② 論理力
- ・常に「ミクシ？（どうして？）」という問いかけをおこなう。
  - ・必ず「意見－理由」という回路を意識させる。意見に対して「なぜなら（理由1）」「それに（理由2）」「また（理由3）」という理由を三つ考えるフォーマットによる練習法を問答形式でおこなう。
  - ・必ず「原因－結果」という論理を認識させる。物語の中で「そのときの主人公は どういう気持ちか」を考えさせる時は、「主人公の気持ちの原因となる出来事、原因」を特定して、「結果」であるを「主人公の気持ち」を推論する。
- ③ 表現力
- ・十五個の単語を文の中で関連づけて極力短い作文を書かせる。
  - ・フォーマットに従って作文を書かせ、批評し、書き直させる。
  - ・発想力・論理力・表現力の集大成として、物語を創作させる。知らない人の写っている写真をテーマにカルタを作らせ、物語の登場人物としてのキャラクター設定をさせる。有名な物語を潤色させる。登場人物、時代、場面など設定を変えて書き直させる。「原因－結果」の法則を重視して物語の続きを書かせる。
- ④ 批判思考力
- ・グループで作文添削をおこなう。個々の書いた作文を全員に読ませ、個々に作文の「いいところ」と「悪いところ」を十個ずつあげさせる。話し合いによって「いいところ」と「悪いところ」を十個ずつにしばり込ませる。書き手に「悪いところ」を改善しつつ、全文を書き直させる。書き直した作文をとなりのグループに渡して、同じ作業をやらせる。
  - ・国語の授業で算数の文章題を読解する。文章題の情報のうち、問題を解くために必要な要素をあげさせる。
- ⑤ コミュニケーション力
- ・相手がどこのだれであろうと、自分の言いたいことを理解させる能力、相手がどこのだれであろうと言うことを理解する能力、グローバルコミュニケーション能力を意味する。
  - ・ディベートをおこなわせる。その際に、次を討論のルールとする。
    - 1) 他人の発言をさえぎらない
    - 2) 話すときは、だらだらとしゃべらない
    - 3) 話すときに、怒ったり泣いたりしない
    - 4) 分からないことがあったら、すぐに質問する
    - 5) 話を聞くときは、話している人の目を見る
    - 6) 話を聞くときは、他のことをしない
    - 7) 最後まで、きちんと話を聞く
    - 8) 議論が台無しになるようなことを言わない
    - 9) どのような意見であっても間違いと決めつけない
    - 10) 議論が終わったら、議論の内容の話はしない
  - ・「遠足とはいかなるものか」などのそもそも論をおこなわせ、前提を統一させる。
  - ・相手の立場になって考えさせる。気持ちの問題ではなく、相手の反応を事前に予測することによって議論をスムーズに進めること、相手の理論構成を予測することによって反論の材料をそろえることを目的とする。
  - ・反論は、「意見」ではなく、「意見の理由」に対する批判をおこなわせる。

